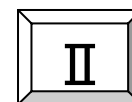


■ 痴ほう性高齢者の現状と今後



1. 練馬区の痴ほう性高齢者の現状と今後

(1) 痴ほう性高齢者の現状

練馬区では、下表「痴ほう性高齢者の現状」のとおり、平成15年4月から10月末日までに11,227人が、要介護（要支援）認定を受けた。その中で痴呆老人自立度Ⅱ以上が4,879人（43.5%）、さらに重い痴呆老人自立度Ⅲ以上が、2,547人（22.7%）である。痴呆老人自立度Ⅱ以上では、練馬区が43.5%に対して全国数値が47.5%、痴呆老人自立度Ⅲ以上は練馬区が22.7%に対して全国数値が25.2%であり、痴呆老人自立度Ⅱ、Ⅲ以上とも全国数値のほうが高い。また、練馬区の痴呆老人自立度Ⅲ以上の総数2,547人の「要介護認定時の所在」は、居宅では練馬区が全国数値に比べ7.2ポイント高い。特養では逆に練馬区が10.1ポイント低くなっている。以上の結果から、練馬区は全国に比べ、痴ほう性高齢者の発生割合はやや低い状況にあり、介護を受ける場所は、居宅介護が高いことがわかる。（P32 痴呆性老人の日常生活自立度判定基準参照）

●痴ほう性高齢者の現状

単位：人

		要介護 (要支援) 認定者	認定申請時の所在(再掲)									
			居宅		特別養護 老人ホーム		老人保健施設		介護療養型 医療施設		その他の施設	
練馬区	総数	11,227	8,218	73.2%	587	5.2%	369	3.3%	310	2.8%	1,743	15.5%
	うち痴呆 老人自立 度Ⅱ以上	4,879 43.5%	2,775 33.8%	56.9% -	508 86.5%	10.4% -	300 81.3%	6.1% -	277 89.4%	5.7% -	1,020 58.5%	20.9% -
	うち痴呆 老人自立 度Ⅲ以上	2,547 22.7%	1,084 13.2%	42.6% -	386 65.8%	15.2% -	196 53.1%	7.7% -	231 74.5%	9.1% -	651 37.3%	25.6% -
全国	総数	3,140,000	2,100,000	66.9%	320,000	10.2%	250,000	8.0%	120,000	3.8%	340,000	10.8%
	うち痴呆 老人自立 度Ⅱ以上	1,490,000 47.5%	730,000 34.8%	49.0% -	270,000 84.4%	18.1% -	200,000 80.0%	13.4% -	100,000 83.3%	6.7% -	190,000 55.9%	12.8% -
	うち痴呆 老人自立 度Ⅲ以上	790,000 25.2%	280,000 13.3%	35.4% -	200,000 62.5%	25.3% -	130,000 52.0%	16.5% -	80,000 66.7%	10.1% -	110,000 32.4%	13.9% -

・練馬区のデータ：平成15年4月～10月末日の認定延べ人数・全国のデータ：平成14年9月末日の推計（厚生労働省推計）

(2) 痴ほう性高齢者の今後

下表「痴ほう性高齢者数の将来推計」は、将来、痴呆老人自立度Ⅱ以上がどのように増加するかを推計したものである。痴呆老人自立度Ⅲ以上についてみると、平成15年度に65歳以上の人口に対する割合は、練馬区が1.0%であるのに対し、全国では3.6%となっている。5年後の平成20年においては、練馬区1.8%、全国5.5%と推計される。

以上の推計値から、練馬区は全国数値に比べ、65歳以上に占める痴呆老人自立度Ⅲ以上の割合は低いが、総数は確実に増加していくことが予測される。

次に、参考図表⑤⑥で練馬区の要介護度別痴呆老人自立度割合をみると、要介護1で痴呆老人自立度Ⅱ以上が、22.4%であるのに対し、要介護2では45.9%に倍増し、要介護5では、80.1%と3.6倍に増大していることがわかる。

このことは、要介護度の重度化に伴って痴呆老人自立度も悪化していることを示している。

●痴ほう性高齢者数の将来推計

単位：人

年度		14	15	16	17	18	19	20	21
練馬区	うち痴呆老人自立度Ⅱ以上		2,775 2.5%	3,415 3.0%	4,105 3.5%	4,745 4.0%	5,303 4.3%	5,796 4.5%	6,173 4.7%
	うち痴呆老人自立度Ⅲ以上		1,084 1.0%	1,337 1.2%	1,626 1.4%	1,891 1.6%	2,120 1.7%	2,313 1.8%	2,469 1.9%
全国	うち痴呆老人自立度Ⅱ以上	1,490,000 6.3%	1,690,000 6.7%	2,080,000 7.2%	2,500,000 7.6%	2,890,000 8.4%	3,230,000 9.3%	3,530,000 10.2%	3,760,000 10.7%
	うち痴呆老人自立度Ⅲ以上	790,000 3.4%	900,000 3.6%	1,110,000 3.9%	1,350,000 4.1%	1,570,000 4.5%	1,760,000 5.1%	1,920,000 5.5%	2,050,000 5.8%

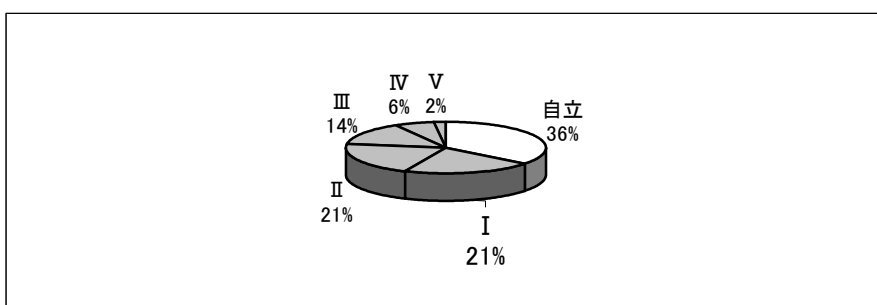
- ・ 数字は要介護認定を受けた者のうち、痴呆老人自立度Ⅱ以上、Ⅲ以上を掲載
- ・ 練馬区の将来推計は、全国と同様の伸び率と仮定して各年度の数値を算出
- ・ 各項目の%記載は、各年度1月1日付65歳以上人口に対する比率

参考図表

①要介護認定者に占める痴ほう性高齢者数 (練馬区認定調査結果より集計)

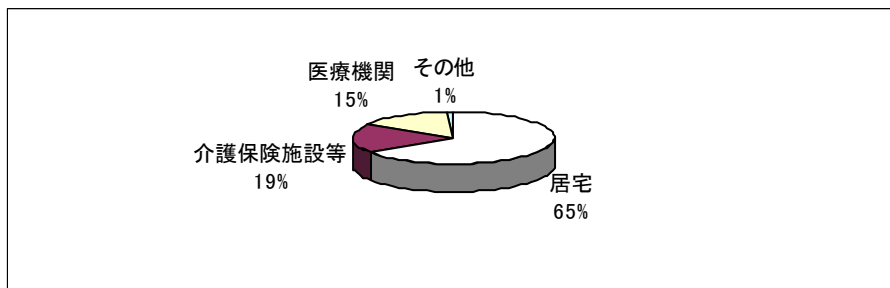
(I～V 痴呆老人自立度) (15年4月から10月末における延べ数)

I	2,353人／11,227人(21.0%)	何らかの痴ほうを有するが自立している
II	2,332人／11,227人(20.8%)	誰かが注意していれば自立できる
III～V	2,547人／11,227人(22.7%)	介護を必要とする
計	7,232人／11,227人(64.4%)	



②痴ほう性高齢者の居場所 (認定調査を受けた場所から) (練馬区認定調査結果より集計)

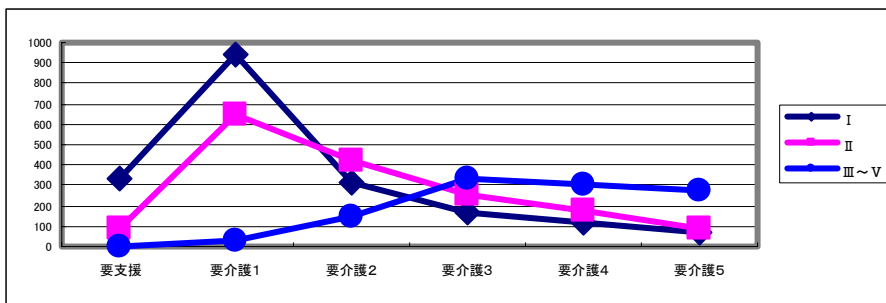
居宅	4,716人／7,232人(65.2%)
介護保険施設および施設の居宅	1,358人／7,232人(18.8%)
医療機関	1,074人／7,232人(14.9%)
その他施設	84人／7,232人(1.2%)
計	7,232人



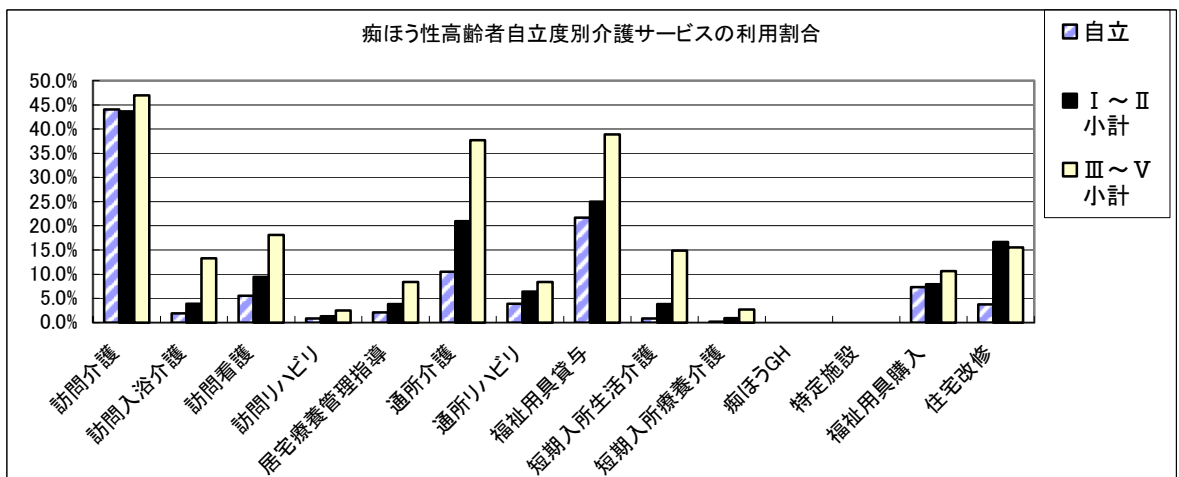
③居宅にいる痴ほう性高齢者の痴呆老人自立度・要介護度内訳(練馬区認定調査結果より集計)

単位：人

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	%
I	331	938	316	167	120	69	1,941	41.1%
II	91	645	423	258	181	93	1,691	35.9%
III~V	0	29	148	331	301	275	1,084	23.0%
合計	422	1,612	887	756	602	437	4,716	100.0%



④痴ほう性高齢者の居宅サービスの利用状況 (練馬区介護保険サービス給付状況より集計)



⑤ 痴呆老人自立度別要介護度分布

(練馬区認定調査結果より集計)

単位：人

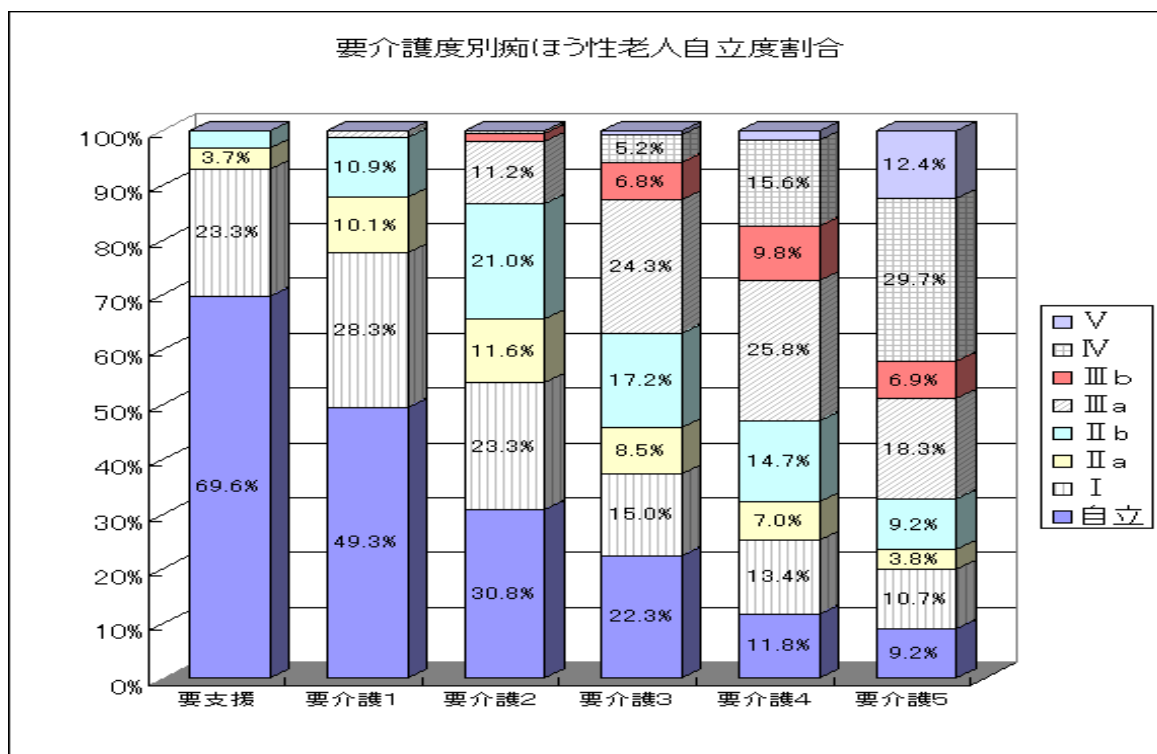
	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
自立	21	520	918	270	191	88	66	2074
I	10	167	513	211	121	92	62	1176
Ⅱa	0	29	195	106	65	47	20	462
Ⅱb	0	29	204	182	150	115	63	743
Ⅲa	0	0	15	88	199	179	124	605
Ⅲb	0	0	3	13	59	72	47	194
Ⅳ	0	0	1	8	51	114	185	359
M	0	0	1	2	3	15	79	100
合計	31	745	1850	880	839	722	646	5713

* 介護認定審査会実施日15年4月1日～7月31日

* 上記審査会において、新ソフトで判定を行い、非該当～要介護5の判定が出た者を対象

⑥ 要介護度別痴呆老人自立度割合

(練馬区認定調査結果より集計)



⑦ 介護保険における要介護度の経年変化

(練馬区認定調査結果より集計)

2000.9.1 現在		2003.9.1 現在の状態								
要介護度	認定者数	自立	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	死亡	転出
要支援	1,351	12.3%	15.5%	33.6%	10.7%	5.3%	4.5%	1.8%	12.2%	4.0%
要介護1	2,833	9.8%	3.4%	26.7%	15.4%	11.3%	8.4%	5.3%	16.3%	3.4%
要介護2	2,016	1.2%	0.7%	10.0%	18.0%	16.0%	15.3%	7.9%	30.4%	0.4%
要介護3	1,651	0.4%	0.1%	1.8%	5.5%	16.7%	23.8%	13.6%	38.2%	0.1%
要介護4	1,712	0.1%	0.1%	0.8%	2.5%	6.0%	20.8%	21.3%	48.4%	0.1%
要介護5	1,441	0.0%	0.0%	0.2%	0.9%	1.7%	7.4%	31.0%	58.8%	0.1%
計	11,004	4.3%	2.9%	13.2%	9.9%	10.2%	13.3%	12.4%	32.2%	1.5%

2. 練馬区の痴ほう予備群の今後

(1) 地域高齢者の2割を占める痴ほう予備群

痴ほう予備群と考えられる5つの認知領域（記憶・学習、注意、言語、空間認知、思考）のいずれかで障害がある高齢者（AACD=Aging Associated Cognitive Declineの頭文字：加齢関連認知低下）は、地域の高齢者の2割程度を占めている。また、AACDのうち約3割が3年間で痴ほう症を発症することが最近の研究からわかってきた。

(2) 練馬区の痴ほう予備群と痴ほう発症者の今後

平成16年度練馬区人口推計をもとに、痴ほう予備群（AACD）および痴ほう発症者の動向を推計すると、今後、両者とも急速に増加し、かつ膨大な数で発生する見込みである。特に、団塊の世代と呼ばれる人たちが高齢者になる平成26年では、AACDが約2万9千人、そこからの発症者数が約8千8百人になることが予測される。

【練馬区における高齢者人口、加齢関連認知低下者数、痴ほう発症者数動向推計】

単位：人

	平成16年	平成21年	平成26年	平成31年	平成36年
高齢者人口	113,739	133,006	146,534	154,275	154,908
加齢関連認知低下(AACD) (高齢者人口の2割)	22,748	26,601	29,307	30,855	30,981
痴ほう発症者数(3年後) (加齢関連認知低下の3割)	6,824	7,980	8,792	9,256	9,294

